



フォーラムたより

2020
4 月号
No. 55

御神願成就のための連帯を

金光教首都圏フォーラム
議長 山田 信二

この度、フォーラム議長の大役を仰せつかりました。フォーラムメンバーと力を合わせて御用にお使い頂きたいと願っております。

前議長の前泉正一先生には、首都圏布教130年のお年柄を含む2期6年、力強くフォーラムを牽引していただきましたこと、この場を借りてお礼申し上げます。

さて、首都圏布教祈願詞には「きびしさつもの今の世」「けわしき加わる生活」とありますが、みなさん、その感を強くしておられるのではないのでしょうか。

新型コロナウイルスはグローバル化により世界に蔓延し、たいへんな社会の混乱を生み出しています。地球温暖化による巨大台風や森林火災なども人間の力を越えて私たちの暮らしを破壊しました。

各国で自国中心主義が台頭し、国家間の緊張は高まり、難民問題や飢餓問題もいっそう深刻になって



います。国内でも、格差社会で貧困にあえぐ人々は増え、孤独・孤立の中で不安を抱え、時にはそれが差別や暴力として爆発します。また、原発問題は解決できないままです。むごたらしい戦争の記憶は薄れ、平和主義も形骸化されています。

まさに、人間が神様の願いに背を向け、天地との関係を断ち切り、神の氏子同士の絆が切れているのが今の世界です。

いっぽう、金光教の信心は、生かされて生きていることを伝えて、天地と人間をつなぎます。信心しておかげを受ける道を開いて、神様と人間をつなぎます。そして、神の氏子同士として助けあって生きることで、人間と人間をつなぎます。今こそ金光教の出番なのです。

そしてこのお道を伝えていくには連帯が必要です。首都圏フォーラムは「布教と連帯」を旗印にして、首都圏においてこのお道の助かりを現すための営みを進めてきました。従来の布教の概念を越えて、ボランティアを通してお道の救いを現す道も開きました。

まさに御神願成就のための連帯を進めていくことが、首都圏フォーラムの願いです。これからも、「今こそ和興心のときなり」と力を合わせていきましょう。

令和元年台風・豪雨災害ボランティア 支援活動のご報告

首都圏災害ボランティア支援機構

当支援機構では、昨年秋の台風15号・19号とそれに続く豪雨災害の被災地に対して、10月2日のボランティア募集開始より昨年末までの間に、7自治体に対して延べ11日間(37名)のボランティア派遣を行いました。また、皆様からも、救援・支援活動への募金として、27件(70万5013円)、タオル・雑巾の寄付を16教会より、お寄せいただきました。

被災自治体ごとの災害ボランティアセンターでは、昨年末の時点でボランティア募集の規模を順次縮小・終了したことから、当支援機構といたしましても、今回の台風・豪雨災害のボランティアの募集を2019年末で終了いたしました。期間中、皆様から多くのご協力・ご支援をいただきましたこと、改めて御礼を申し上げます。

なお、当支援機構では災害ボランティア活動への支援を引き続き実施してまいりますので、個別に被災地でのボランティア活動を希望される方は、支援機構事務局まで、ご相談下さい。
相談・連絡先 支援機構事務局 松本尚
TEL: 048-622-9232 (大宮教会)
E-mail: konko-omiya@ka3.so-net.ne.jp

青年信奉者育成祈願祭

千葉県教会連合会では、2月2日、野田市教会を会場に青年信奉者育成祈願祭が執り行われた。同連合会では毎年2月にお仕返し、今年で17回目となる。

午前中に、御本部参拝の願いや意味、御神徳、育成祈願祭の目的などについて説明があり、その後、神饌物の御用を行い、祭典を御奉仕させていただいた。

祭典後は、横須賀教会の本木雅史先生から、「取次弁当」と題して講話があった。



講師は、「難儀な方々が教会に参って来られていない現状に、教会の敷居が高いのなら、自分の方から出向いてお話を聞かせていただく」と街頭取次をはじめ、その取り組みによって、御神縁の輪が広がっていく様を話した。

参加者からは、和装に身を包み、にこやかに話される御姿は、良寛さまに見える程であったとの声が聞かれ、有意義な祈願祭が執り行われた。

首都圏女性の集い開催される



関東教区信徒会主催の第26回首都圏「女性の集い」が2月11日、東京・中野サンプラザを会場に開催され、90名が参集した。

このたびの講師は中谷智美さん(三重県五十鈴川教会輔教)。「『塀の中』からRestart」と題して講演した。

中谷さんは、29年間勤めた銀行員を退職し、未経験の仕事にチャレンジしたいとの願いから、キャリアコンサルタントの国家資格を取得し、三重刑務所で13年にわたって受刑者の就労支援に携わり、現在は法務省管轄の支援センターに勤務し、雇用情報提供サービス、採用手続き支援サービス、就労支援相談窓口サービスなどの業務に携わっている。

はじめに講師の活動内容をビデオで紹介した後、講演があった。

講演の中で中谷さんは、三重刑務所での13年に渡る勤務を振り返り、受刑者と向き合ってきた面接を重ねる中で、雇用を通して社会へ送り出してきた。受け入れ側も、社会制度も徐々に道が整いつつあるが、その一方で塀の中に戻ってくる人もいる現状や課題があるとしながらも、「神様がつけてくださった道」という熱い思いが、中谷さんの支えとなり、力となっていることが伝わる講演であった。

首都圏布教御礼祈願祭

日時: 6月13日(土) 15:20~ (開場14:50)

会場: 金光北ウイング やつなみ南ホール

教話: 山田信二先生 (首都圏フォーラム議長・横浜西教会)

講題: 「天地のおかげ お道のおかげ 末の末まで」

祭典後 金光様お退けお見送り

2020年度 各連合会の活動と願い

茨城・栃木教会連合会



岡本真美会長

茨城・栃木教会連合会では、本年度の基本方針に「ひとり一人が地域・社会へ貢献することを通して、お道による助かりの輪を広げる」と定めました。お役に立つための具体的な目標を各自で定め「神人あいよかけよの生活運動」の実践に取り組んでまいります。例えば、「見つけた肩は必ず拾

う」「積極的に笑顔で挨拶・声かけする」「共感力を高める「応答で」」などなど。些細なことでも、特筆することでは無いように思える事柄であっても、少しずつ積み重ねられていく中で、気付きと改まりの連鎖が生まれてくるのです。それが「神心となって人を祈り助け導く」ことに繋がり、やがては「神人の道」が現われる日が訪れます。何時の時代にあっても「風が吹けば桶屋が儲かる」の如く、というのが常の事柄であり、道理であると信じています。それぞれの教会における信心の稽古と実践を土台としながら、連合会全体で信心研鑽・共励の場をもつてゆきたいと願って、今年も六月には日帰り型の教師信徒合同研修会を、さらには三年ぶりで計画された信徒部一泊型研修会を、信心成長の機会としてまいります。

首都圏フォーラムの新しい顔ぶれ

【フォーラム会議構成員】

- (茨城・栃木) 岡本真美、菊池瑞昭
- (群馬・埼玉) 小笠原操、松本峰子
- (千葉県) 鈴木宏政、菅原安喜子
- (東京都) 鈴木一嘉、松本信吉
- (神奈川・山梨) 山田信二、川込光貴
- (東京センター担当者) 宮田和弘次長

【議長】山田信二

【副議長】鈴木一嘉（議長代行）、岡本真美

【事務局長】川越基如

【事務局員】山口信道、福田俊介、長谷川兆伸

【主査】小笠原操（ホームページ）、松本峰子（フォーラムたより）

【監事】田中美和子、安西宏太

【団参委員会】委員長・山田信二、副委員長・湯川光信

【団参監事】田中美和子、宮田和弘（東京センター次長）

【支援機構事務局長】松本尚

【支援機構事務局員】横瀬佳子

群馬・埼玉教会連合会



小笠原操会長

群馬・埼玉教会連合会では、「世界の平和と人類の助かりに向けて『神人の道』を開く」を基本方針に掲げて活動させていただきます。なかでも、今年には教団独立120年のお年柄にあたることから、教師・信徒合同研修として、第27回金光プラザ・イン群埼玉（8月30日）において、東京都赤羽教会長・藤原務正師を講師に迎えて研修し、教団独立と首都圏の役割について再確認し、現代社会における本教

信仰の意義と役割について求めてまいりたいと願っています。その他の行事としては、連合会内の信奉者の交流と青少年育成が目的の第18回レクリエーションプラザ（日時未定、埼玉県立川の博物館）、定期教話（年1回）、社会問題勉強会、信心共励会などを計画しています。また教師部では年3回の教師会に加えて、宮城県気仙沼教会副会長・奥原幹雄師を講師に迎えた教師研修会（7月7日～8日、那須塩原温泉）を開催し、教会の社会的役割をテーマに、こども食堂や臨床宗教教師の取り組みについてお話しを伺います。信徒部では4回の運営委員会を予定しています。この他にも教会家庭婦人会、群馬女性フォーラムがそれぞれ活動を繰り広げる予定です。

神奈川・山梨教会連合会



山田信二会長

【基本方針】世界の平和と人類の助かりを目指し、信奉者が広く連帯して、お道展開の活動を進めよう

【活動方針】

- 一、お道の仲間をつくらう
- 一、信心を高めよう
- 一、人を育てよう
- 一、信心の喜びを伝えよう

神奈川・山梨教会連合会では、この方針の下、老若男女、信徒も

千葉県教会連合会



鈴木宏政会長

千葉県教会連合会では、オリンピックにあやかっけてテーマを「羽ばたき」、そしてサブテーマとして【おれと喜びの心で人を祈ろう】と題して、ご本部参拝・研修会・女性の集い・青年信奉者育成祈願祭・少年少女の集い・交流教話などの年間の行事を進めさせていただきます。また、教師会で信心研鑽に励む

ことはもとより、運営会議・総会などでも、教師の発題などに時間を注いで、実りある学びの場作りを願っています。明治期に千葉にお道の一つ種が生まれ、大正・昭和・平成、そして令和に至るまで、お道のご信心は繋がってきています。先覚先人が歩まれたお道を踏み歩み踏み行い、その歩んでいる道がやがて轍となり、後に続く人たちがこのお道の信心を迷うことなく、見失うことのないような、道しるべとなるお役に立たせていただきたいと思っています。そして、羽ばたき、おかげの証を立ててまいります。企画されています。今年には東京2020五輪大会が開催され、世界的から「東京」は注目されますが、当教会連合会もこの記念年に一層「布教と連帯」が図れるようにおかげを蒙ってまいりたいと思います。

東京都教会連合会



鈴木一嘉会長

東京都教会連合会では本年度、「心新たに あいよかけよで『布教と連帯』を図り首都圏布教と社会活動を推進する」との活動方針を掲げ

① 教会布教の充実に資する活動の実施

- ② 信奉者の育成と研修
 - ③ 社会活動に取り組む
 - ④ 首都圏フォーラム活動の推進
- 以上4つの方途の元、連合会活動に取り組んでまいります。

また、55教会を4つの分会に分け、定期的に活動を進め、分会独自の発想による「分会集い」も各々

新型コロナウイルスで亡くなられた方々に謹んでお悔やみを申し上げますとともに、罹患された皆様に心よりお見舞い申し上げます。また、首都圏フォーラムでは、祈りの連帯を目指し、信心の大きな力でこの困難を乗り越えていくことを願って、「新型コロナウイルス流行終息祈願詞」を作成し、各教会に配布いたしました。信奉者の皆様にご活用いただければ幸いです。